

夢の翼



H 2 7 . 9 . 2 8 (月) [第 3 5 号]

☆『立て看板賞 2 E !』～第30回かさぎの祭文化の部～

下の写真は、『第 30 回 かさぎの祭 文化の部』(9/18・19)の各クラスの「立て看板」です。2 E の『次はアナタ』が、見事「立て看板賞」を受賞しました。おめでとう！！



☆『開会式 P R』～第30回かさぎの祭文化の部～



今や“富高文化祭名物”とも言える開会式後の各団体による P R は、やや女装が目立ちつつも、それぞれが趣向を凝らしたパフォーマンスで文化祭のオープニングを大いに盛り上げる内容でした。特に、2 E の『次はアナタ』は作品的にも面白かったですね。



☆台湾学②『新渡戸稲造』～台湾砂糖の父～

旧五千元札の肖像としても知られた新渡戸稲造は、「太平洋の架け橋」になりたいとアメリカに私費留学し、帰国後は母校札幌農学校（後の北海道大学）の教授となる。1901（明治 34）年、台湾総督府民政長官で同郷（岩手県）の後藤新平によって半ば



強引に台湾総督府技師として迎え入れられる。台湾へ渡った新渡戸は、半年かけて全島を巡り、殖産興業の要は製糖業にあると確信し、製糖政策の具体策を盛り込んだ「糖業改良

武士道

新渡戸稲造著
矢内原忠雄訳



「武士道はその美徳たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である」——こう語った新渡戸（1859～1933）は以下、武士道の源流・特質、民衆への普及を希望し、武士道が日本に於いて日本の精神的な支柱に形成されたことを強調する。「太平洋の動機、わが国を志した人々にあめりけ、その論議は常に世界的コンテクストの中で展開される。

意見書」を児玉総督と後藤新平に提出する。新渡戸の改善策により砂糖生産量が 11 年間で 6 倍になるなど、台湾における糖業発展の基礎を築くことに大きく貢献する。その後、1920（大正 9）年の国際連盟設立に際して、事務次長のひとりに選ばれる。また、英文で書かれた『武士道』は、1900 年の初版刊行以来読み継がれ、21 世紀に入っても出版され続けている。